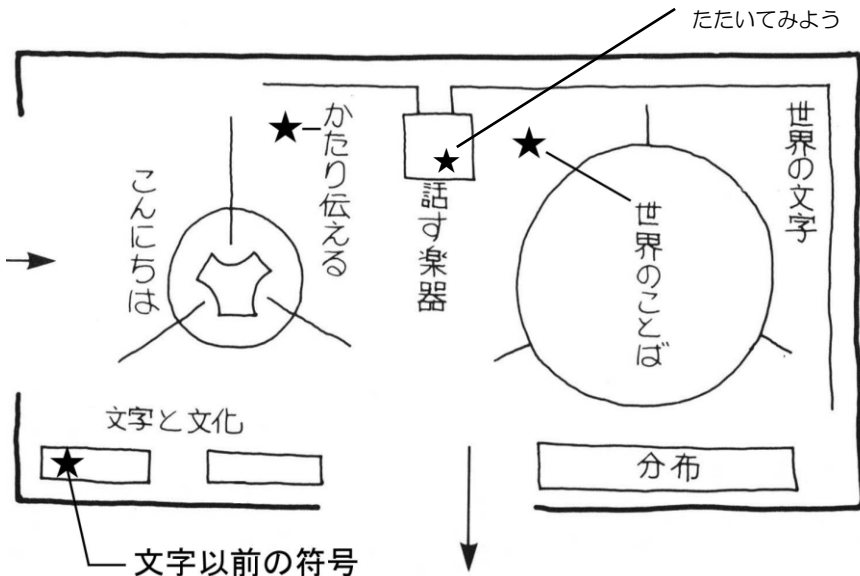


ほんかんだい しつ げんご
本館第3室：ことばの世界——言語

“ことば”はヒトを他の生き物から ^{くべつ} 区別 ^{とくちょう} する 特徴 のひとつです。
 人類 ^{じんるい} は、数万年前から言語を使用していたと考えられています。
 お ^{たが} 互 ^い の 意志 ^{いし} を伝え合うために、音や声を発し、記号を用い、
 そしておよそ 5,000 年以上も前に文字を発明しました。言葉の
 使用は、^{ちゅうしょうてき} 抽象的 ^{しこう} 思考 ^{かのう} を可能 ^た にし、また知識 ^{ちんしき} を次の世代 ^{でんたつ} に 伝達 ^{でんたつ} し
 集積 ^{しゅうせき} させていくのに重要でした。

この展示室では、言語の役割とその ^{たようせい} 多様性 ^を、民族資料と
 ともに音声や映像で紹介しています。

★体験コーナー
 ファン人の太鼓を
 たたいてみよう



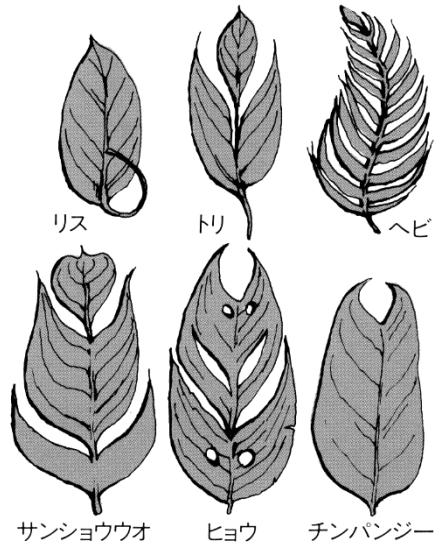
LANGUAGE

To communicate with each other, human beings use languages consisting of sounds, writings and symbols. This hall explains the role and diversity of languages.

文字以前の符号—エコンビ^{ふごう}

コンゴ民主共和国(旧 ザイール)のイトウリの森で採集^{さいしゅう} 狩猟^{しゅりょう} 生活をする民族ムブティが、カサブルという植物の大きな葉でつくるエコンビと呼ばれる目印は、動物の種類や自分の属^{ぞく}する集団をあらわします。

獲物^{えもの}を追うとき、根元^{ねもと}を進行方向に向けて置いてゆくことによって、道に迷わず、仲間に行き先を伝えることができます。



話す楽器：太鼓ことば^{たいこ}

西アフリカから中部アフリカにかけての地域では、人間が話す言葉の特徴^{とくちょう}をなぞって、太鼓の音の高低^{こうてい}、強弱^{きょうじやく}、長短^{ちやうたん}によりメッセージを伝える習慣^{しゅうかん}があります。写真はカメルーンのファンの太鼓です。

マホガニー製のこの太鼓の音は数 km 先まで届き、森に働きに出かけている仲間を呼び戻したり、他の村へ何かを伝えたいときに用います。

熱帯雨林の森では狼煙^{のろし}をあげても煙は葉に遮^{さえぎ}られてしまいます。一方、太鼓の音は人間の声よりも遠くまで響くため、電話や無線^{むせん}のない時代、とても優れた通信手段^{すぶ}でした。現在でも祭りや儀礼の場を中心に使用されています。

